

ひとみ 十

広島市教職員組合(全教)

書記局通信

2024年2月2日

Stop Genocide!

原爆ドーム前スタンディング行動

子どもを守れ!

1月28日(日)に原爆ドーム前でスタンディング行動を行いました。ガザでの惨状を報道で目の当たりにし、ヒロシマの教職員として何か行動しないと!と企画しました。市教組(全教)だけの取り組みではなく、広島市で働く教職員の行動とし、他の団体にも呼びかけました。その結果、市教組(全教)の関係以外の他の市教組や私学からの参加だけでなく、高校生の参加もあり、全体でおよそ60名の参加となりました。

集会では「ねがい」と「ヒロシマの有る国で」を秦賢二書記次長のギター演奏により参加者みんなで合唱しました。

また、リレートークには倉澤さん、藤中さん、山本さんの3人が発言(裏面に発言趣旨)。

「ここヒロシマは、原子爆弾の投下という史上最大のジェノサイドを受けた場所。そのヒロシマの教職員として、戦争反対、ストップジェノサイド、の声を挙げることも、世界の平和につながると思う。話し合って解決しよう、それが子どもたちにとっての、何よりの平和教育だ。」などの発言に、参加者からは拍手があがりました。



【参加者の感想】

○ 前日の夜遅くに、「市民が見たガザ地区」という番組を見ました。ほんとに酷い。今回参加に際して熱が上がりました。しかし、ウクライナはダメで、ガザはセーフという理屈が分かりません。日本政府がそれを言わないのが、もどかしい。

○ 60人も集まって心強く感じました。女子高生が加わってくれたので訴えのパワーが増したのではないのでしょうか。戦争をしている国があることを忘れてはいけな
いと思いました。子どもたちとも平和や戦争について話をしていきます。

○ 歌声もありとてもやさしい集会になったと思います。リレートークもどれも子ども中心の発言で、「先生」だなと改めて感じる事ができました。教室でもっと平和のこと、世界のことを語っていこうと思いました。



リレートーク(発言趣旨)

「20 を祝う会」に出席した卒業生に再開した。彼らは「保健室の先生になりたい」「エンジニアになりたい」という夢を持ち、日々努力していると聞き、彼らを頼もしく誇らしく思えた。一方、戦闘の続くガザの子どもたちにその姿を重ねてみた。ガザの子どもたち一人ひとりにも夢があったはず、「医者になりたい」「ユーチューバーになりたい」「ジャーナリストになりたい」など。しかし、その夢を叶えることなく犠牲になる命が1万人を超えている。世界中の子どもたちが自分の夢を叶えるために生きられるような世の中になってほしいと強く願う。



特別支援学級の子どもが授業でいのちの尊さについて学び、生まれてくるってすごいことなんだと感じた。その後、ガザのことを知って、「戦争はダメだ!」とつぶやいた。言葉は未熟で稚拙だが、その声に大人が耳を傾けなくてはいけない。パレスチナ人だろうが、ユダヤ人だろうが生まれてくるいのちは等しく尊い。大事なことはとてもシンプル。子どもたちが自分のいのちを戦闘の続くガザに重ねて考えるってすごいことだと思う。「戦争はダメだ!」という子どもの声を、1人の教師として、1人の人間として一緒にあげていきたい。



成長発達中の子どもは、たくさんのトラブルを起こす。時には暴力をとともなうケンカもある。そのときは、暴力ではなく話し合いで解決することを学校では教える。子どもの気持ちを大事にしながら、話し合っ解決の道をみんなで探る。ただ、話し合いには時間がかかり、困ることもある。しかし、暴力で争うよりはずっといい。ガザの惨状も、時間がかかっても話し合う方が間違いなく価値がある。平和な世界を作るためにも、私たち教職員は、話し合うことの大切さを、子どもたちに伝える責任があると思う。



教職員として黙ってられない!!



Stop Genocide!

子どもたちを守れ!!



子どもたちを守りたい教職員行動実行委員会